

地域と学校の協働通信

令和2年10月21日
武蔵野市教育委員会
指導課教育推進室
第4号

できることや得意分野を生かして協働する

指導課長 村松 良臣

昔からあったかのように「コロナ禍」という言葉が、日常の生活で当たり前のように使われています。新学習指導要領の改訂の経緯の中で記された、「急速に変化しており、予測が困難な時代」が、文脈とは違う意味で、私たちの眼前に現れているところです。誰もが経験しなかった学校の臨時休業は、これまで行われてきた学校の教育活動の意味を見直す機会となりました。新学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」を、この状況下を実現していくため、学校と家庭・地域の協働について改めて考えていく必要があります。

この「地域と学校の協働通信」は、

- 未来の地域の担い手である子どもたちのよりよい成長のために、地域と学校がパートナーとして連携・協働していくこと
- 「誰かがやってくれる」のを待つのではなく、保護者も含めた地域の皆さん一人ひとりが当事者として子どもたちを育てていく「志」をもった方々と共に学校をよりよくしていきたい、元気な地域を創っていききたいという願いから地域と学校が連携した教育活動の様子など具体的に紹介していくこと

を目的に、昨年度から発信しています。

「協働」とは、各々できることや得意分野を生かして、同じ目的のために力を合わせて働くことだと考えます。各校工夫されている協働の取組を分かち合いながら、みなさんのアイデアを寄せて、地域と学校の連携のためによりよい仕組みを作り上げていきましょう。

地域コーディネーターの橋渡しで  様々な取組が実施されています！！

地域の協力で！！



学校では当初、新型コロナウイルスの消毒作業を先生方が行っていましたが、「おやじの会・地域有志・青少協等」の方々から声上がり、地域の協力により消毒作業を行うことができました。また、学校からの依頼を受け、地域コーディネーターが「卒業生・福祉の会・青少協等」に声掛けをし、協力者を増やすなどしながら、1学期を乗り切ってきました。消毒作業は現在、シルバー人材センターへ委託し実施しています。収束するまでには時間がかかると思いますが、子どもたちのために、今後も地域の皆さんの協力をお願いします。

2学期の始まりに

本宿小学校では、児童が使用している椅子の脚に、中古のテニスボールを先生方と学校用務さん、児童全員の協力を取り付けることになりました。

テニスボールを取り付けることで、椅子を引く音が軽減され、消音効果があります。教室内での不快音が少なくなり、どの児童にとっても優しい教室になります。



今回、このテニスボールを取り付けたいと、地域コーディネーターに学校から要望がありました。地域コーディネーターは、ボールの収集に協力してくれるお店探しやその手配などについて、教育推進室の学校支援コーディネーターと連携し、実施することができました。

多くの学校で地域コーディネーターと学校支援コーディネーターとの連携した取組ができるといいですね。



英検・漢検・数検の取組

市内複数の中学校では、地域コーディネーターを中心に、地域の方々の協力により、英検・漢検・数検の取組を実施しています。

特色ある教育活動として、学力向上を目指し、早い学校では10年以上も前から実施されています。

コロナ禍のため、今年度は各検定が実施できていませんでしたが、今年度の第一回目が11月に開催される予定です。申込者は、10月現在で、英検（80名）、漢検（98名）、数検（32名）と、毎回多くの生徒が受検し、自身の力を磨いています。

